

わが街 Watching



▲ナイチンゲール像の明かりを受け取る生徒

田川看護高等専修学校で戴帽式

看護の道へ決意も新たに

2月3日、田川看護高等専修学校で戴帽式が行なわれ、19歳から37歳までの1年生36人(うち男性9人)がナイチンゲール像から明かりを受け取り、ナイチンゲール誓詞を斉唱して看護の道を進む決意を新たにしました。

長末大典学校長は、「今まで基本を学んできたが、実習に入るこれからが大切。人の命の大切さを十分に認識して、いかに命を助けるかを考えてほしい」と話しました。

生徒を代表して松島淳子さんが、「今後は、看護師の誇りと責任を忘れることなく患者さんの立場に立ち、その人が本当に必要とする看護を行なっていきたい」と謝辞を述べました。

田川市就学前学習会

家庭教育などの重要性を学ぶ

2月5日、市民会館で保育士や小学校教師などを対象とした就学前学習会が開かれ、約70人が参加しました。

就学前の家庭教育などが、小学校入学後の学力向上に深く関わっていることを学ぶ研修会。実態を調査している金川小の教諭熊谷正敏さんが分析と考察を発表し、絵本の読み聞かせやトランプ・すごろく遊びなどが学力向上などに関係することを報告しました。続いてこの分野に詳しい神戸親和女子大学准教授の新保真紀さんが講演。就学前の学力の不均衡を、就学後に解消する方法などを紹介。最後に「ワークショップなどを開いて協力して問題に取り組むことが大切」と、学校、幼稚園、保育所と家庭の連携が必要であることを訴えました。



▲「小1プロブレム」について解説する新保准教授

人権擁護委員協議会の出張人権教室

おもいやりを大切に

2月6日、田川人権擁護委員協議会が、市郡の小学校を訪問して開く人権教室を弓削田小学校で行いました。

紙芝居やビデオ鑑賞などを通して、子どもたちに人権問題について考えてもらう教室で、年間10校ほど回っているそうです。この日は、同小3年生と船尾小3年生の合同授業。人権擁護委員が、村人が協力しあって住みやすい村を作っていく紙芝居を披露しました。子どもたちと感想を話し合ったあと、委員らが「皆さんも協力しあって学校行事などに取り組んでください」と呼びかけました。弓削田小の石井里奈さんは「みんなとけんかしないように仲良くしていきたいです」と話していました。



▲委員から手話を交えた歌を教わる児童ら

アジアマスターズ陸上大会で金メダル4個

元気に長生き、目指せ世界記録

1月27日、第15回アジアマスターズ陸上競技選手権大会(1月13日～17日タイで開催)の砲丸投げ、円盤投げ、ハンマー投げ、やり投げで金メダルを獲得した麻生勝弥さん(82歳、後藤寺西団地在住)が、市役所を訪れ伊藤信勝市長に報告しました。

麻生さんは、60歳から陸上の投てき競技を始め、毎日約1時間の練習を欠かさず、酒もたばこも10年以上前にやめ、食事は野菜を中心に1日2食。いまや「アジアに敵なし」の強さです。次の目標は、11月にオーストラリアで開催される世界大会。「無理せず、寝不足、暴飲暴食を抑え、長生きして世界記録を目指したい」と意欲を見せていました。



▲4種目の金メダルと賞状を持つ麻生さん

金川小学校でマナーキッズテニス教室

マナーを学んで楽しくテニス

1月29日、金川小学校で5年生70人と保護者を対象に「マナーキッズテニス教室」が開催されました。これは、テニスに親しんでもらいながら、あいさつや礼儀作法の基本的マナーなどの習得を目指すもので、小笠原流礼法 鈴木万亀子総師範があいさつの仕方を指導した後、杉山記一プロテニス選手などがテニスの指導を行ないました。

参加者は、ネットを挟んで分かれ、「お願いします」と大きな声であいさつをし、ボールを打ち合いました。

元気にあいさつをしていた坂本匠さんは、「テニスは力加減が難しかった。これからは、きちんとあいさつができるように気をつけます」と話していました。



▲テニスの指導をする杉山選手

川づくりの会が河川の環境美化活動

魅力ある中元寺川にするために

2月1日、後藤寺中学校横の中元寺川河川敷で、後藤寺・弓削田校区の住民からなる「川づくりの会(浦田憲一会長)」の約40人が、草刈りなどの環境美化活動を行ないました。

「川づくりの会」では、毎年草刈りやごみ拾いを行なってきましたが、安全で親しみやすい自然豊かな水辺をつくり、川を拠点とした人や文化を育む地域社会を実現しようと、昨年11月に作業部会をつくりました。今後は住民や子どもたちも巻き込んで、環境づくりに取り組む予定です。

見吉正幸作業部会長は、「川をきれいにし、生態系を取り戻して、子どもたちが安心して遊べる環境にしたい」と話していました。



▲草を刈る「川づくりの会」のみなさん